

新型コロナウイルス感染症サーベイランス週報: 発生動向の状況把握

2022年第8週(2022年2月21日~2022年2月27日; 3月1日現在)*

COVID-19 weekly surveillance update:
epidemiologic situational awareness
- Week 8, as at March 1, 2022

*一部、第9週の情報を含む

本週報は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行状況を、時・人・場所の項目を用いて記述し、複数の指標を精査し、全国的な観点からまとめています。「トレンド(傾向)」と「レベル(水準)」を明記し、疫学的な概念を用いて、状況把握の解釈を週ごとに行っています。解釈については、注意事項にも記載していますが、特に直近の情報については、過小評価となりうる場合などがあるので十分にご注意下さい。国や地方自治体の COVID-19 対策に従事する皆様とともに、広く国民の皆様へ COVID-19 に関する情報を提供し、還元する事を目的としております。COVID-19 対策・対応の参考資料として活用していただければ幸いです。

今週の主なコメント	1
1. 全国の状況	3
1.1. 全国の新規症例報告数	4
1.2. 全国の検査数、新規陽性者数、陽性率	5
1.3. 全国の入院者数、重症者数、死亡者数	6
1.4. 全国の年齢群別新規症例報告数	11
2. 地域別の状況	14
2.1. 地域別の新規症例報告数	14
2.2. 地域別別の重症者数	20
HER-SYS に関する注意点	23
解釈に関する考え	23
参考サイト	23

今週の主なコメント

全国: 第8週(2022年2月21日~2月27日)は、全国的には、ほとんどの指標で微減~減少を認めたが、微増~増加継続のものもみられた。

直近の週では、全国的には、自治体公表日・HER-SYS の診断日ベースの新規症例報告数はいずれも減少した。一方、いわゆる第5波のピークレベルをいずれも依然として大きく上回っており、第4週以降は、新規症例報告数に占める無症状症例の割合は約6%と低くほぼ横ばいであった。直近の週は、検査数、新規陽性者数、検査陽性率がいずれも減少した。このパターンは、検査数が減少したために新規陽性者数が減少したと説明し難い傾向であり、また、流行(有病割合)が減少した際に想定される傾向である(感染を疑ったために実施する検査数も減り、検査を行った場合、結果が陽性である確率も減少する)。一方、検査陽性率が約40%と依然と高い。

新規に届出された診断時中等症以上であった症例、重症であった症例は、第7週と同様に、第8週も減少であった(遅れバイアスを考慮した、3月1日現在の第8週の値と2月22日現在の第7週の値の比較においても、第8週は、中等症以上・重症ともに減少であった)(より重症な入院例の指標は、少し過去の罹患を反映する傾向があるが、軽症例・無症候例と比較して、受診・検査行動の変化の影響をより受け

にくい)。直近の週では、レベルとしては、中等症以上は 2000例を上回っており、重症の症例は 600 例を超えている。中等症以上・重症の症例は、第4波のピークを上回っており、重症の症例は、第5波のピークも上回っている。なお、年齢群別には、中等症以上では、60～79 歳と 80 歳以上で第 4, 5 波のピークを上回っており、重症の症例では、20～39 歳と 40～59 歳以外の年齢群で第 4, 5 波のピークを上回っている。中等症以上では 10～14 歳以外で、重症の症例では 15～19 歳以外で、いずれの年齢群で横ばい～減少であった(注:直近の週は過小評価されており、前週との比較においては、遅れバイアスを考慮するのが重要である)。

入院中の入院者数・重症患者数においては、入院者数は 2021 年第 50 週以降、増加傾向であったが、第 6 週から高止まり～減少傾向に転じた。重症例は、2021 年第 51 週以降は増加傾向であったが、第 6～8週は、高止まりである。なお、入院者数においては、第 2 週に第 4 波のピークを超え、第 3 週に第 5 波のピークを上回った。重症例においては、第 4 波のピークレベルを上回っているが、第 5 波のピークを下回っている。新規症例の発生から長いタイムラグが想定される死亡者数においては、第 2 週以降増加傾向である。また、NPO 法人日本 ECMOnet が集計する ECMO・人工呼吸器装着数においては、1 月後半から増加していた ECMO 開始数は第 7 週と同様に減少し、1月中旬から増加傾向であった人工呼吸器の開始数においても、第 8 週は減少した。

全国の年齢群別新規症例報告数のレベル(各年代の人口 10 万対新規症例報告数)は、第1～5週は増加したが、第6週から微減傾向となっており、第8週は人口 10 万対 98～920 人であった。第 6～7週と同様に、人口当たり新規症例報告数としては、70 代が最も低く、5～9歳が最も高かった。有症状例においても傾向は同様で、人口当たり新規症例報告数が最も多い年齢群の上位 3 位は、5～9歳、10～14歳、0～4 歳であった。

前週比としては、第 1 週は 10.0、第 2 週は 3.4、第 3 週は 2.2、第 4 週は 1.4、第 5 週は 1.0、第 6 週は 0.8、第 7 週は 0.9、第 8 週は 0.8 であった。年代ごとの前週比は、第 8 週は中央値:0.79、範囲:0.71～0.92 倍であった。また、直近の週は過小評価される傾向があり、3 月 1 日現在の第 8 週の値と 2 月 22 日現在の第 7 週の値を比較すると、中央値:0.83、範囲:0.74～0.96 倍であった。遅れを考慮した前週比でも全ての年齢群で 1 を下回った。

小児の傾向としては、0～4 歳、5～9 歳、10～14 歳(0～14 歳は、報告された全症例の 27.5%)の人口 10 万対新規症例報告数はそれぞれ 522、920、651 であり、第 6, 7 週と同様に、いずれも 15～19 歳を上回った。15～19 歳の新規症例報告数は、第 3～4週は増加が鈍化し、第 5週以降は微減傾向である(第 8 週の遅れを考慮した前週比は、14 歳以下では、0.88～0.96 であったが、15～19歳では 0.83)。

人口 10 万対新規症例報告数の前週差としては、第 6 週は、80 代以上以外の年齢群で減少の前週差を認めた。第 7 週の前週差においては、20～70 代の各年代では減少を認めたが、15 歳未満の小児では増加した(人口 10 万対 25 から 34 人の増加)。第 8 週の前週差においては、全ての年齢群で前週差の減少を認めた(人口 10 万対 -20 から -101 人の減少)。第 8 週は、第 7 週と同様に、20 代で前週差の減少幅が最も大きかった。

地域別: 遅れ報告を考慮した HER-SYS・自治体公表の前週比においては、第6週は、関東、近畿、中国、四国、九州、沖縄県の地域でいずれも 1.0 を下回った。第 7 週は、関東、近畿、中国、九州の地域でいずれの前週比が 1.0 を下回ったが、沖縄県では 1.0 を上回った。第 8 週は、北陸と沖縄県以外の地域で、いずれも 1.0 を下回った。直近の週では、全症例の約 7割弱を近畿と関東が占めている。

人口 10 万対新規症例報告数の前週差としては、第6週では、全ての地域で人口 10 万対新規症例報告数が 100人以上であったが、関東、中国、九州、沖縄県で、人口 10 万対新規症例報告数の前週差が 10 人以上の減少となった。第 7 週においては、中国と九州で、人口 10 万対新規症例報告数の前週差が 10 人以上の減少となった。第 8 週では、北海道、東北、関東、東海、近畿、中国、九州で、人口 10 万対新規症例報告数の前週差が 10 人以上の減少となった。一方、沖縄県においては、人口当たりの新規症例報告数は依然として高く、第 7 週と同様に、第 8 週の前週比は 1 を若干上回り、人口 10 万対新規症例

報告数の前週差も 5 人強の増加であった。

地域別の新規に届出された診断時中等症以上であった症例と重症であった症例においては、第 6 週には、中等症以上の症例は、東北、北陸、東海、近畿、四国で増加し、重症の症例は、東北、北陸、四国で増加した。第 7 週には、中等症以上の症例は、北海道と沖縄県で増加し、重症の症例は、東海と中国で微増～増加した。第 8 週には、中等症以上の症例は、東北のみで増加し、重症の症例は、東北と沖縄県で微増～増加した。沖縄県においては、重症の症例は、第 7 週は微減したが、第 8 週は微増した。新規の中等症以上と重症の症例は、ほとんどの地域で減少したものの、依然として微増～増加している地域も認めており、第 4, 5 波のピーク値に近い上回るレベルで推移している地域もある。

まとめ: 第 8 週は、検査数、新規陽性者数・検査陽性率がいずれも減少した。また、遅れ報告を考慮しても、新規の中等症以上・重症の症例は前週より減少し、全ての年齢群で前週比が 1 を下回った。一方、レベルとしては、ほとんどの指標で依然として高く、高止まり～微増の地域も認めている。微減～減少に転じた指標が多いものの、遅れバイアスも考慮し、複数の指標を用いて、状況・疫学の変化を迅速に捉え、リスク評価と適切な対応に繋げる事が重要である。

地域	レベル ^{*,**}	トレンド
北海道	高	減少
東北	高	減少
関東	高	減少
北陸	高	横ばい
東海	高	減少
近畿	高	減少
中国	高	減少
四国	高	減少
九州	高	減少
沖縄県	高	増加

*レベル: 人口 10 万対新規症例報告数が 15 未満は「低」、15～24 人は「中」、25 人以上は「高」と分類。トレンド: 前週の新規症例報告数との比較

**HER-SYS と自治体公表情報でレベルが異なる場合は高い方のレベルを記載した。

～地域の定義～

東北: 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

関東: 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県

北陸: 新潟県、富山県、石川県、福井県

東海: 岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

近畿: 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国: 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

四国: 徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州: 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県

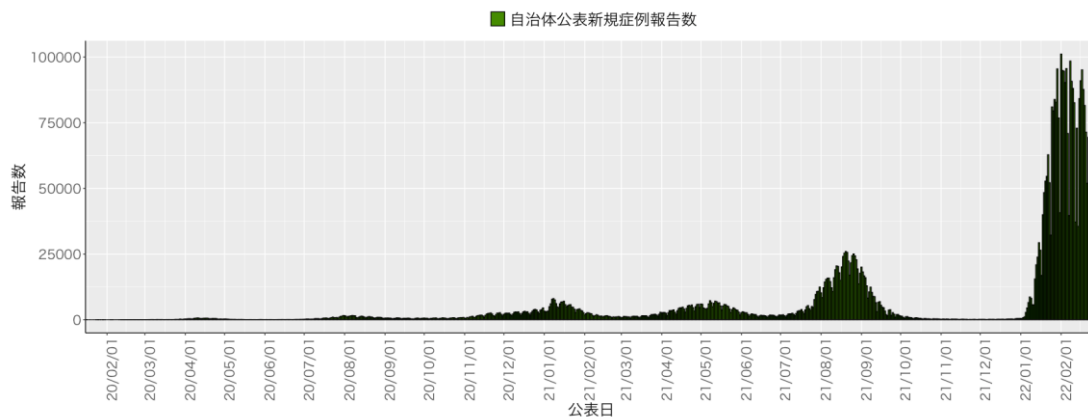
1. 全国の状況

国内では、厚生労働省により公表されている、各自治体がプレスリリースしている個別の症例数(再陽性例を含む)を積み上げた情報によると、2022 年 3 月 1 日 0 時現在、新型コロナウイルス感染症の症例報告数は 4,907,243 例、死亡者数は 23,625 例と報告されている。第 8 週は新規症例報告数 464,268、死亡者数 1,625 であり、前週と比較して新規症例報告数は 82,257 人減少、死亡者数は 163 人増加した。

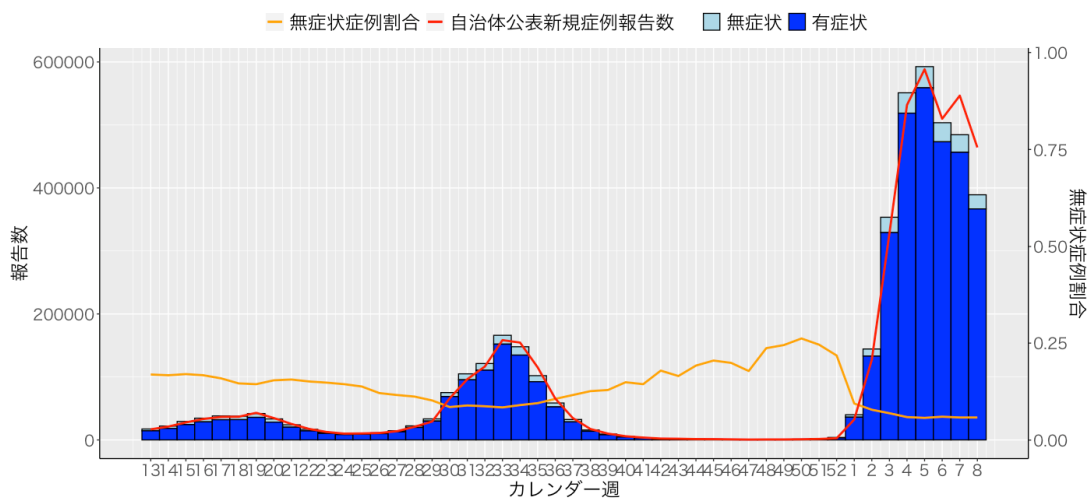
1.1. 全国の新規症例報告数

図1: 全国の流行曲線: (A) 公表日別(全期間)、(B) 診断週・公表週別、(C) 発症日別(2021年3月29日~2022年2月28日)。直近2週間は、過小評価されるため、濃灰色の背景で示す。

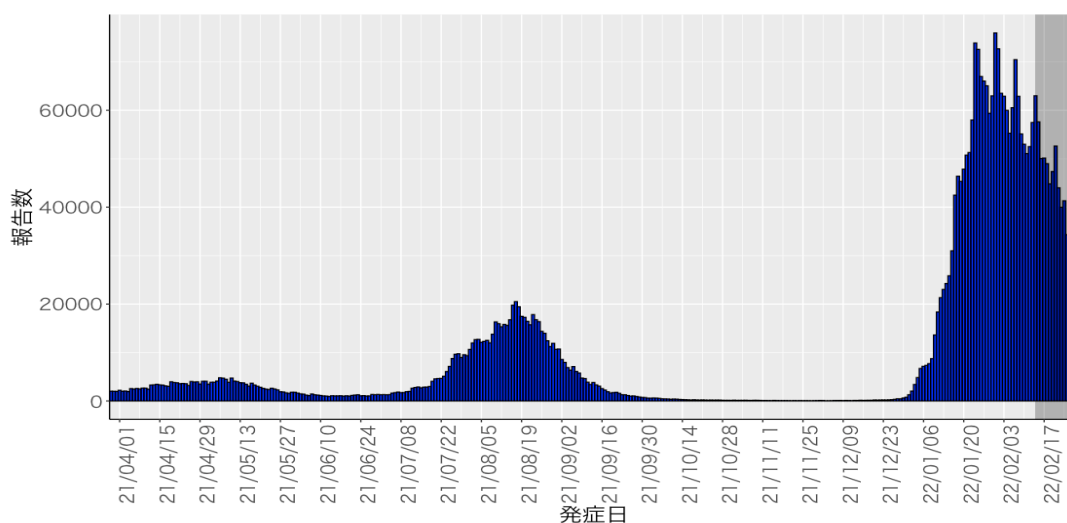
(A)



(B)



(C)



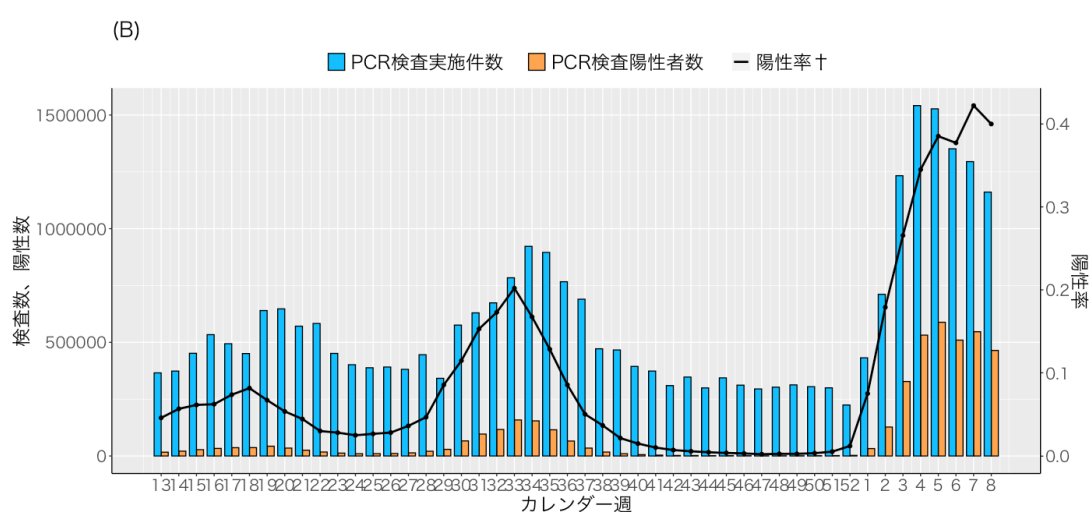
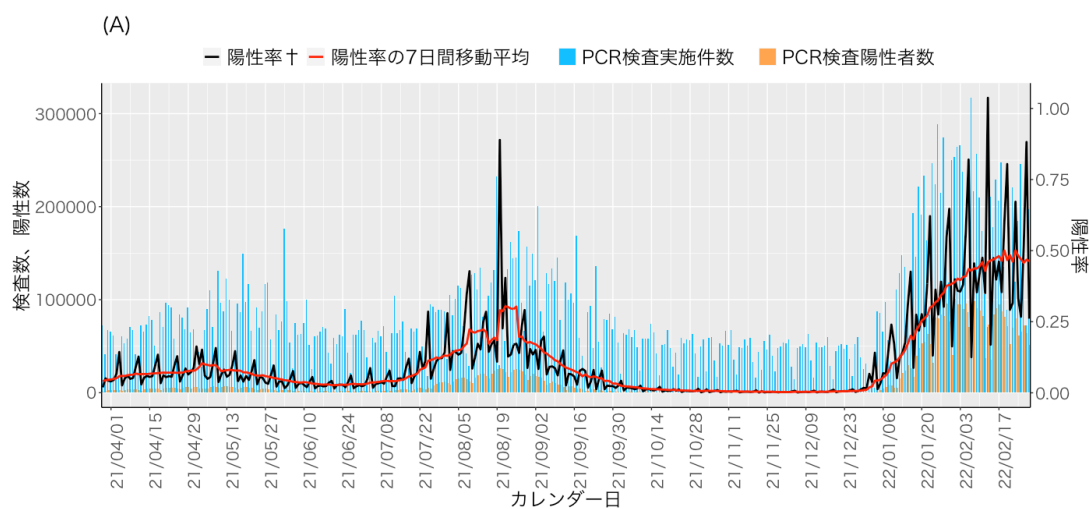
出典:HER-SYS、厚生労働省 (<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/open-data.html>) (3月1日現在)

注)発症日から受診、検査、診断、報告(入力)までの時間により、直近の報告数は過小評価される傾向がある(発症日ベースは、直近のデータほど遅れがあり過小評価される事、発症日データが欠如・不明な者は含まれていないことに注意)。診断日ベースは、発症日ベースの流行曲線よりこの時間差を短縮出来るため、直近の状況进行评估したい場合には、有用である(発症日ベースと比べて、この過小評価の影響をより受けにくい。また、診断日は、発症日より、欠如割合が通常低い)。一方、発症日は、(有症状の)新規発生を示すため、罹患の発生動向の評価には有用であり、バッチ検査や入力等のバイアスを抑えられる(少し過去の状況进行评估したい場合には、有用である)。

第8週の新規陽性者数は、前週より HER-SYS、自治体公表ベースともに、減少した。また、有症状に限定した場合でも減少がみられた。第51週～第4週までは、新規症例報告数に占める無症状症例の割合が減少傾向であったが、第4週以降は、ほぼ横ばいであった。いわゆる第5波の第33週では、陽性例に占める無症状症例の割合は約8%と低く、その後新規症例報告数は減少し当割合は増加したが、第2週から割合が更に低くなり、直近の週は5.8%であった(新規症例報告数の増加とともに、無症状症例が相対的により報告されなくなった)。公表日ベースのため、閲覧日によって新規陽性者数が変動しない自治体公表日ベースの報告数においては、直近の週は、前週と比較して新規症例報告数が82,257人減少した(前週は、1,858人減少)。

1.2. 全国の検査数、新規陽性者数、陽性率

図2:PCR検査数、PCR陽性者数、陽性率[†]:(A)日別、(B)週別(2021年3月29日～2022年2月28日)



出典:厚生労働省 (<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/open-data.html>)(3月1日現在)

†陽性率は正確には検査数と陽性者数が対応せず、割合でない可能性があるため、正確には比である。陽性者数:各自治体がプレスリリースしている個別の事例数(再陽性例を含む)を積み上げて算出した。検査数:各自治体がウェブサイトで公表している数等を積み上げたものである。基本的には検査実施人数だが、一部自治体においては人数ではなく件数を計上している。また、計上している検査の種類(行政検査、保険適用検査、民間検査機関による検査等)も自治体によって異なる可能性がある。注)2021年6月3日(第22週)に、一日に10万件以上の検査を報告した県があるため、解釈に注意が必要である。

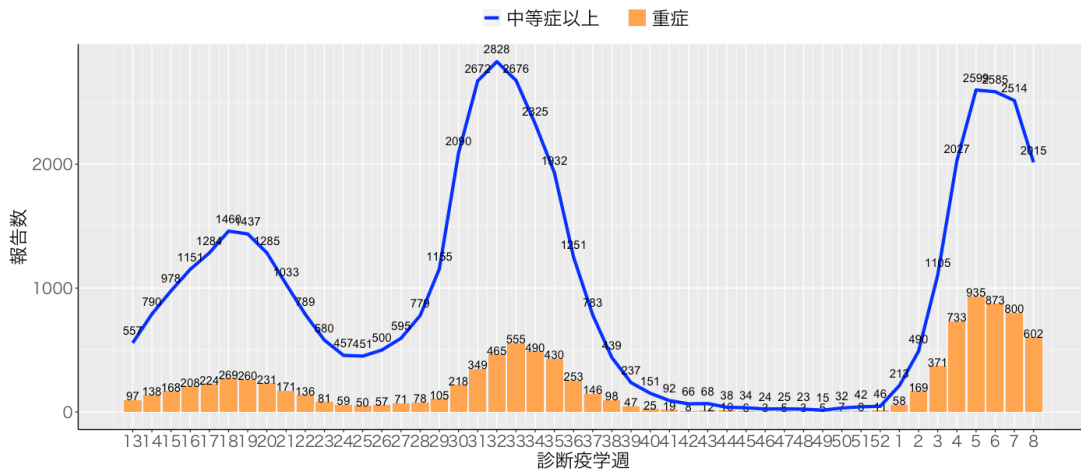
2021年第25週(6月21~27日)~2021年第33週(8月16日~22日)は、全国の新規陽性者数と検査陽性率が共に毎週増加したが、2021年第34週(8月23~29日)より、いずれも減少に転じた。一方、第48週~第5週は、新規陽性者数と検査陽性率は、毎週、前週より増加した。第8週(2月21~27日)は、第7週(2月14~20日)と比べて、検査数(第8週:1,160,929、第7週:1,294,942)、新規陽性者数(第8週:464,268、第7週:546,525)、検査陽性率(第8週:39.99%、第7週:42.2%)であり、検査数、新規陽性者数、検査陽性率の全てで減少した。

1.3. 全国の入院者数、重症者数、死亡者数

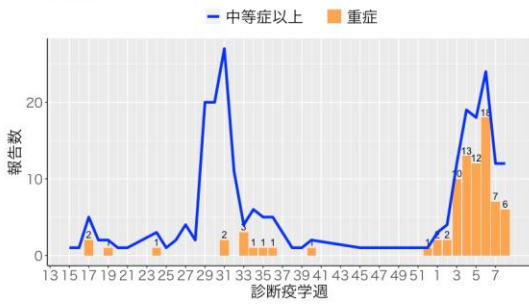
図 3:(A)新規に届出された診断時中等症以上、重症であった症例[†](診断週、年齢群別)、(B)入院中の入院例・重症例と新規死亡例(報告日別)、(C)新規症例と死亡例(報告週別)(2021年3月29日~2022年2月28日)

(A)

全年代



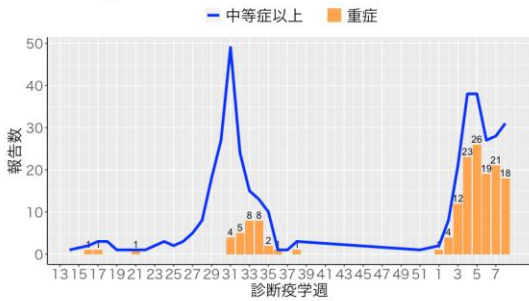
0-4歳



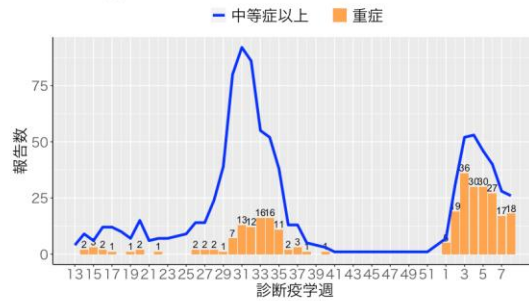
5-9歳



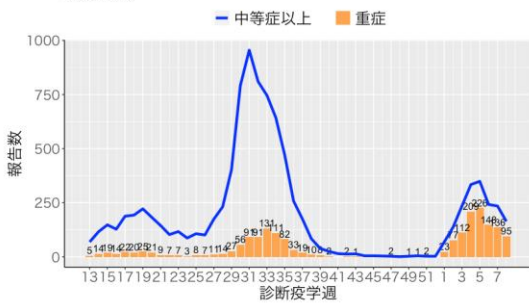
10-14歳



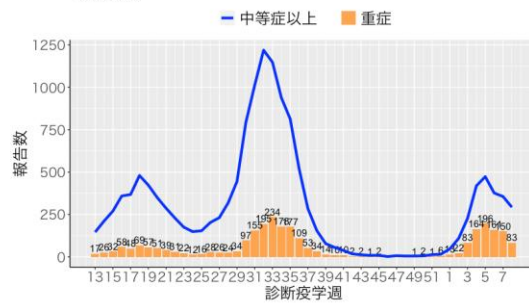
15-19歳

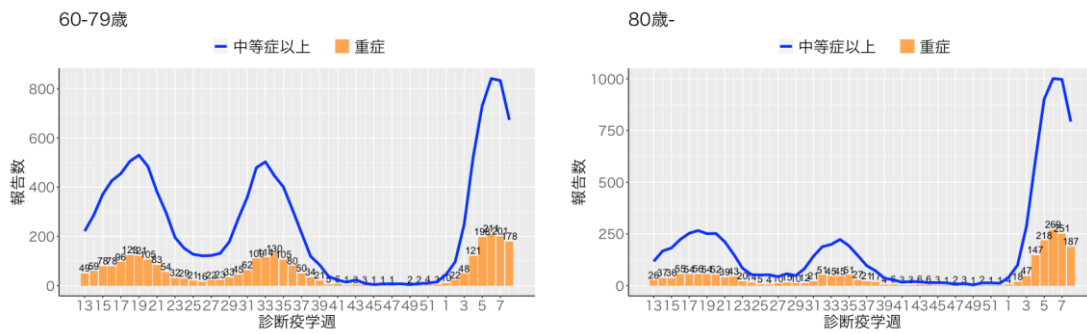


20-39歳



40-59歳



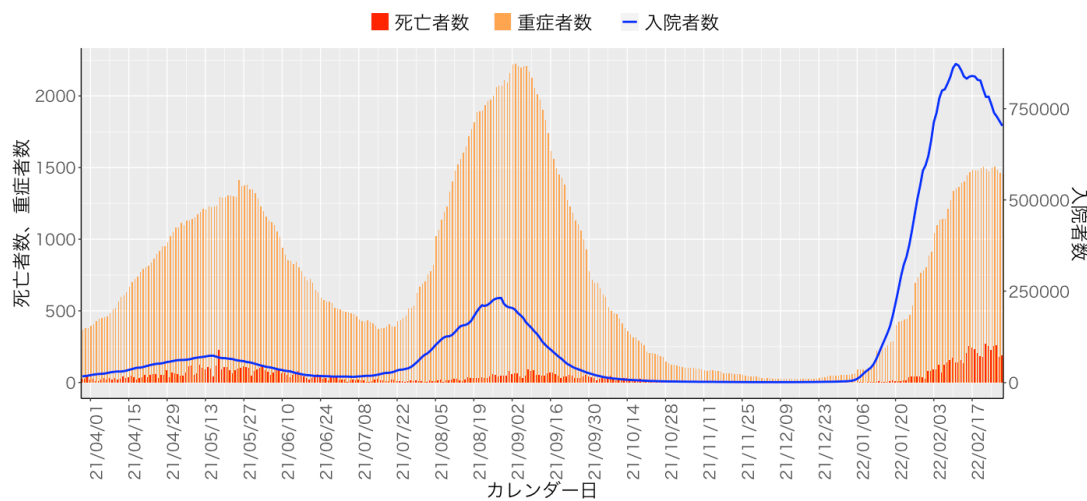


出典:HER-SYS(3月1日現在)

注)地域別の流行曲線ごとに縦軸のスケールが異なることに注意が必要である。

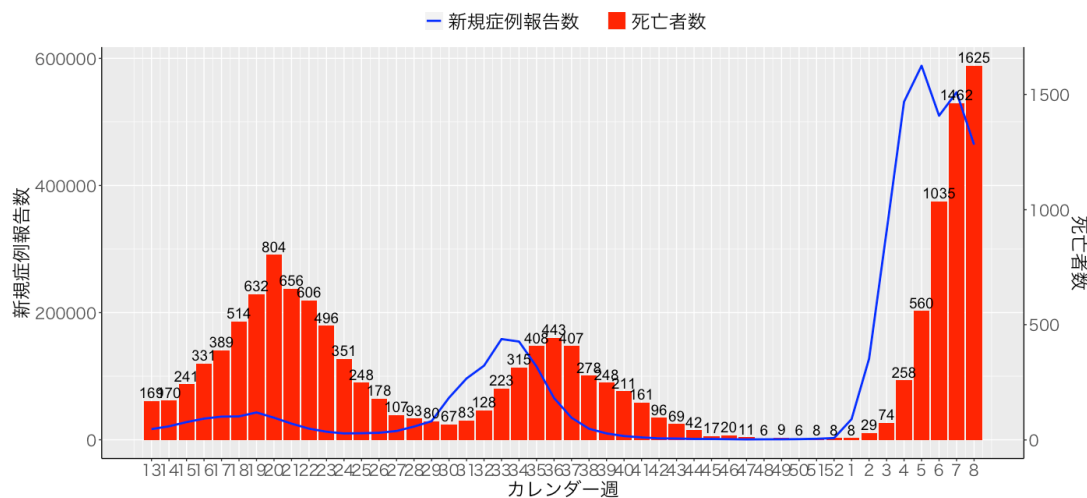
注)直近の週は過小評価されている場合がある。

(B)



出典:厚生労働省(<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/open-data.html>)(3月1日現在)

(C)



出典:厚生労働省(<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/open-data.html>)(3月1日現在)

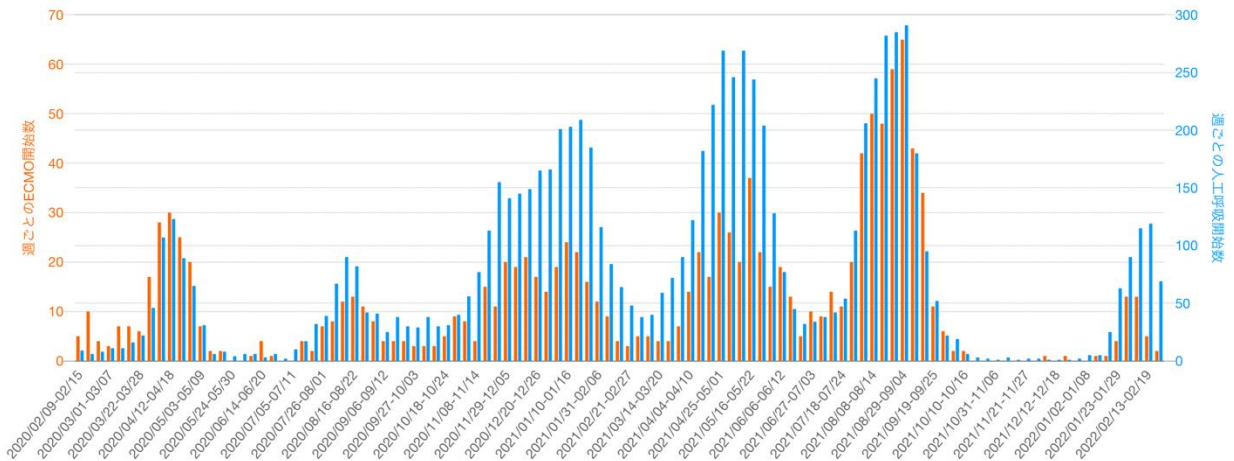
†HER-SYS における中等症以上の定義は発生届で診断時に、「肺炎像」「重篤な肺炎」「多臓器不全」「ARDS」のいずれかにチ

エックされているかどうか、または死亡例である(「肺炎像」ありのみも含むため、臨床的に軽症である症例も含まれる可能性がある)。重症の定義は発生届で診断時に、「重篤な肺炎」「多臓器不全」「ARDS」のいずれかにチェックされているかどうか、または死亡例である。

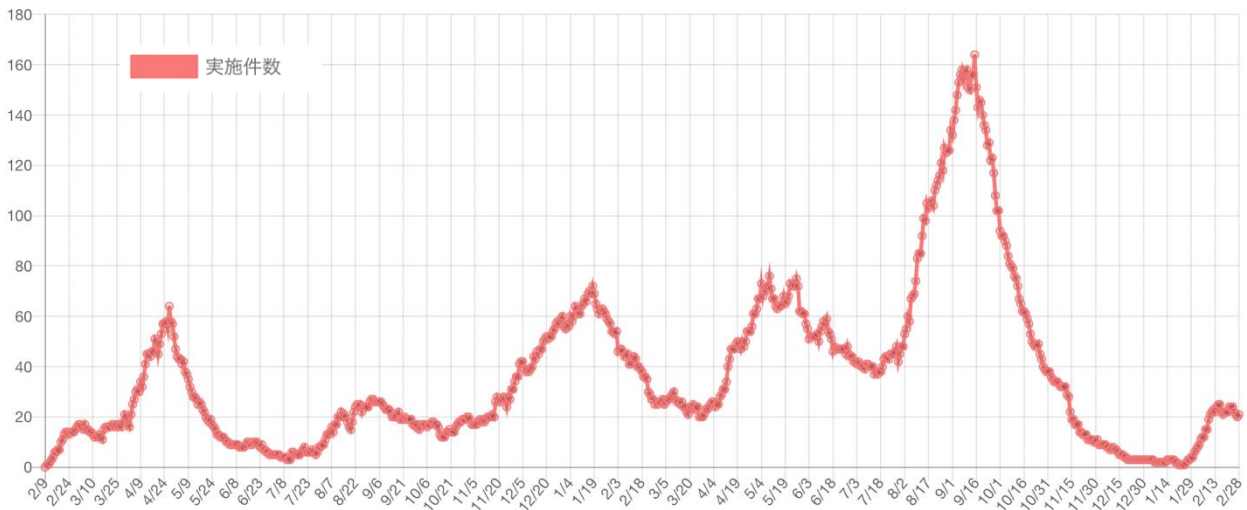
注)5月19日時点(第20週)、未計上であった死亡例がまとめて発表された。

図 4:全国の(A)週ごとの ECMO、人工呼吸器の開始数と、日ごとの入院中の(B)ECMO、(C)人工呼吸器装着数(2020年2月14日~2022年2月28日)

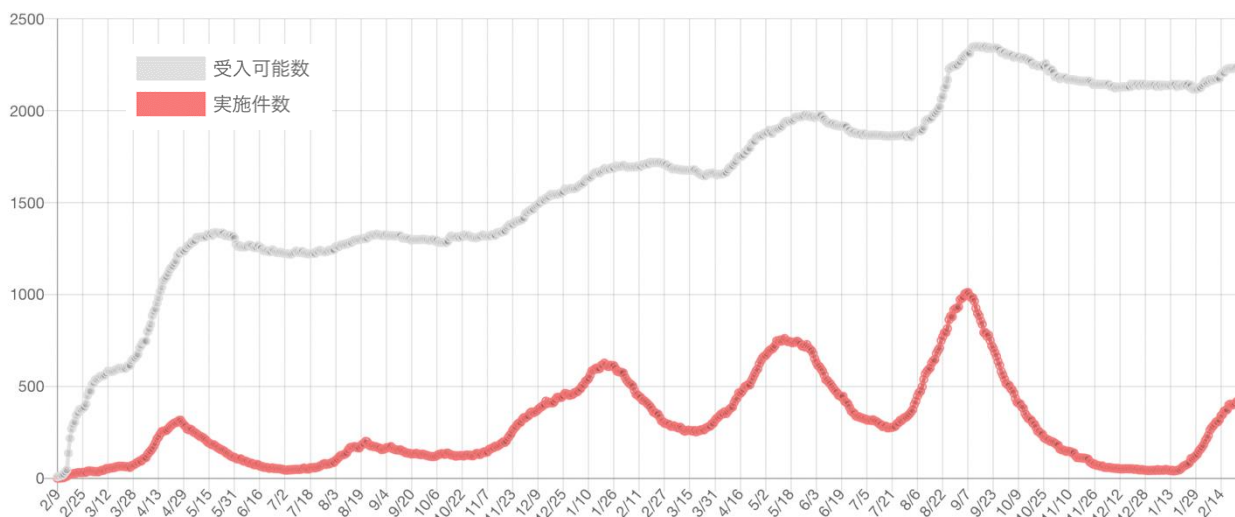
(A) 開始日で集計されている週ごとの ECMO と人工呼吸器の開始数(直近の週は 2月20日~2月26日:ECMO 2例[前週5例]、人工呼吸器 69例[前週119例])



(B) ECMO 装着中の全国の COVID-19 患者数:2月21日(22例)、2月28日(21例)



(C) 人工呼吸器装着中の全国の COVID-19 患者数(ECMO 含む):2月21日(399例)、2月28日(383例)



出典:NPO 法人日本 ECMOnet (<https://crisis.ecmonet.jp/>)(3月1日現在)
注)データは、閲覧日によって微増微減する場合がある。

新規に届出された診断時中等症以上であった症例と重症であった症例数は、中等症以上は第 33 週以降、重症は第 34 週以降、第 42 週まで減少した。第 43～49 週には、いずれも微増微減をくりかえし低い値で推移していたが、第 50 週～第 5 週は、中等症以上・重症の症例がともに毎週、増加した。前週と比較して、第 6 週より穏やかな減少を認めており、第 8 週も減少した(注:遅れバイアスを考慮した、3月1日現在の第8週の値と2月22日現在の第7週の値の比較においても、第8週は、中等症以上・重症とともに減少であった)。直近の週では、レベルとしては、中等症以上は 2000 例を上回っており、重症の症例は 600 例を超えている。中等症以上・重症の症例は、第4波のピークを上回っており、重症の症例は、第5波のピークも上回っている。なお、年齢群別には、中等症以上では、60～79 歳と 80 歳以上で第 4, 5 波のピークを上回っており、重症の症例では、20～39 歳と 40～59 歳以外の年齢群で第 4, 5 波のピークを上回っている。中等症以上では、10～14 歳以外で、重症の症例では、15～19 歳以外で、いずれの年齢群で横ばい～減少であった。ただし、直近の週は過小評価されており、前週との比較においては、遅れバイアスを考慮するのが重要である。

全国の入院中の入院治療等を要する COVID-19 患者の数の推移については、入院者数は 2021 年第 50 週以降、増加傾向であったが、第 6 週から高止まり～減少傾向に転じた。重症例は、2021 年第 51 週以降は増加傾向であったが、第 6～8 週は、高止まりである。なお、入院者数においては、第 2 週にいわゆる第 4 波のピークを超え、第 3 週にいわゆる第 5 波のピークを上回った。重症例においては、第 4 波のピークレベルを上回っているが、第 5 波のピークを下回っている。

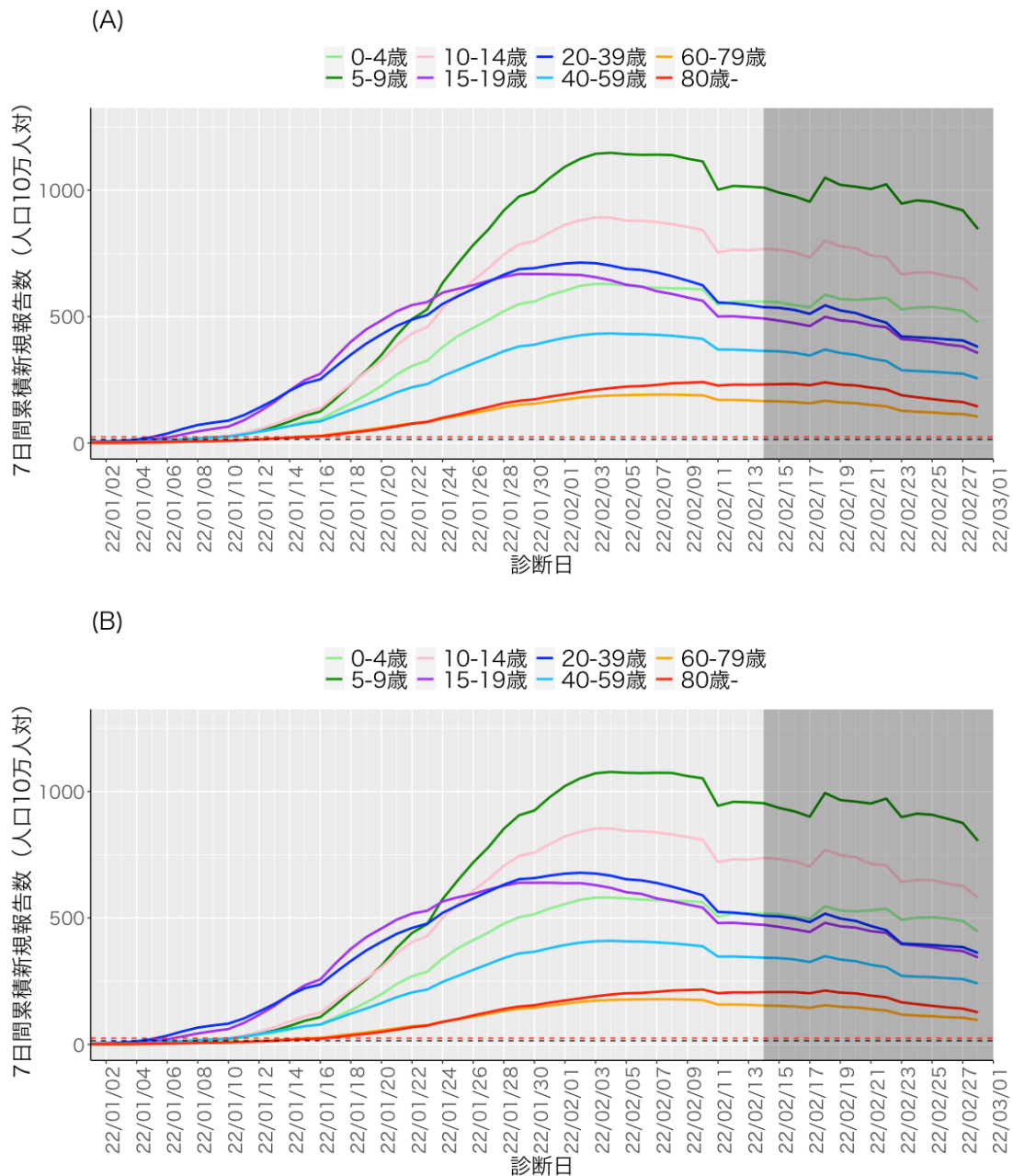
NPO 法人日本 ECMOnet が集計する ECMO/人工呼吸器装着数においては、開始日で集計されている週ごとのそれぞれの開始数で、1月中旬から人工呼吸器の開始数が増加したが第 8 週は減少し、ECMO の開始数は、1 月後半から増加していたが第 7 週と 8 週は減少した。一方、入院中の COVID-19 重症例における人工呼吸器装着中の患者数においては、1 月下旬から増加傾向が続いていたが、直近の第 8 週は高止まり～微減である。ECMO 装着中の全国の COVID-19 患者数においては、1 月下旬から増加傾向がみられていたが、第 7 週と 8 週はほぼ横ばいであった。新規の人工呼吸器の開始数は、第 2 波のピークを下回った。ECMO/人工呼吸器装着数の最新の状況と詳細に関しては、NPO 法人日本 ECMOnet の <https://crisis.ecmonet.jp/> を参照いただきたい。

死亡者数においては、新規症例の発生から死亡までは、長いタイムラグが想定される(例:いわゆる第 1～3 波では、新規症例報告数のピークから死亡例のピークには約 1 か月の遅れがあった)。死亡者数は、2021 年第 37～45 週まで、継続して減少したが、第 46 週は、前週より微増した。第 47 週、48 週は減少し、それ以降は微増微減を繰り返し、各週 10 例未満の低い値で推移していたが、第 2 週は 29 例、

第3週は74例、第4週は258例、第5週は560例、第6週は1035例、第7週は1462例、第8週は1625例と増加傾向である。

1.4. 全国の年齢群別新規症例報告数

図 5:直近 2 か月間の年齢群別の新規症例報告数:(A)無症状病原体保有者を含む場合と(B)有症状者限定の場合
 黒点線は人口 10 万対新規症例報告数が 15 人、赤点線は人口 10 万対新規症例報告数が 25 人を示す。



出典:HER-SYS(3月1日現在)
 注)直近の週は過小評価されている場合がある。

表 1:(A)2022 年第 8 週の年齢群別の新規症例報告数、人口 10 万対新規症例報告数、前週の新規症例報告数と前週比、(B) 遅れ報告によるバイアスを考慮した、同時点での前週比、(C) 遅れ報告によるバイアスを考慮した、同時点での新規症例報告数、人口 10 万対新規症例報告数の前週との差(同時点とは、3 月 1 日現在の第 8 週の値と 2 月 22 日現在の第 7 週の値との比較)

(A)

年齢群	新規症例報告数 (人)	割合 (%)	人口 10 万対 新規症例報告数	前週新規症例報告数 (人)	前週比
0-4 歳	24,850	6.4	522	26,919	0.92
5-9 歳	46,924	12.1	920	51,680	0.91
10-14 歳	34,867	9.0	651	41,218	0.85
15-19 歳	22,273	5.7	383	27,908	0.80
20 代	49,168	12.6	389	64,353	0.76
30 代	60,119	15.5	420	74,145	0.81
40 代	59,720	15.4	322	75,408	0.79
50 代	35,726	9.2	219	46,003	0.78
60 代	21,227	5.5	131	28,588	0.74
70 代	15,655	4.0	98	22,135	0.71
80 代以上	18,247	4.7	162	25,639	0.71
計	388,776	100.0		483,996	0.80

(B)

年齢群	当該週新規症例報告数(人)	前週新規症例報告数(人)	前週比
0-4 歳	24,850	25,776	0.96
5-9 歳	46,924	49,485	0.95
10-14 歳	34,867	39,453	0.88
15-19 歳	22,273	26,874	0.83
20 代	49,168	61,865	0.79
30 代	60,119	71,302	0.84
40 代	59,720	72,330	0.83
50 代	35,726	44,097	0.81
60 代	21,227	27,332	0.78
70 代	15,655	21,042	0.74
80 代以上	18,247	24,058	0.76
計	388,776	463,614	0.84

(C)

年齢群	当該週 新規症例 報告数(人)	前週 新規症例 報告数(人)	当該週 人口 10 万対 新規症例報告数	前週 人口 10 万対 新規症例報告数	当該週 症例報告数の 前週との差	人口 10 万対 該当週症例報告数の 前週との差
0-4 歳	24,850	25,776	522	542	-926	-20
5-9 歳	46,924	49,485	920	971	-2,561	-50
10-14 歳	34,867	39,453	651	737	-4,586	-86
15-19 歳	22,273	26,874	383	462	-4,601	-79
20 代	49,168	61,865	389	490	-12,697	-101
30 代	60,119	71,302	420	499	-11,183	-78
40 代	59,720	72,330	322	390	-12,610	-68
50 代	35,726	44,097	219	271	-8,371	-51
60 代	21,227	27,332	131	168	-6,105	-38
70 代	15,655	21,042	98	132	-5,387	-34
80 代以上	18,247	24,058	162	214	-5,811	-52
計	388,776	463,614			-74,838	

出典:HER-SYS(3 月 1 日現在)

注)直近の週は過小評価されている場合がある。

レベル(各年代の人口 10 万対新規症例報告数)としては、2022年第1～5週は増加し、第 5 週は、144～992 人であった。一方、第 6 週は、人口 10 万対137～938人と微減し、第7週は、人口 10 万対132～971人と前週とほぼ横ばいであった。第 8 週は、人口 10 万対 98～920 人と微減した。人口当たり新規症例報告数としては、第6～7 週と同様に、70 代が最も低く、5～9歳が最も高かった。人口 10 万対新規症例報告数においては、第 50 週から、20 代が増加し、上位となった。第 2 週には、15～19 歳が大きく増加し、人口 10 万対新規症例報告数としては、第 2 週と 3 週は20～30 代をわずかに上回ったが、第4週は、再び20～30代を下回った。第 2 週以降は、20～30 代が占める割合は減少傾向となっており、20～30 代は全体の新規症例報告数の 28%を占めた。一方、第 8 週で新規症例報告数が最も多い年代は、30 代であった。

年代によっては検査をより多く受ける傾向があり、無症候でも探知される可能性が相対的に高いので(帰省や渡航前、企業・施設のスクリーニング制度等)、有症状例に限定した評価も重要である。有症状例においても傾向は同様で、直近の週は、人口当たりの新規症例報告数が最も多い年齢群の上位 3 位は、5～9歳、次いで10～14歳、次いで 0～4 歳であった。第 1 週は 20～30 代が人口当たり最多の年齢群であり、第 2～3週は 15～19 歳が 20～30 代を上回ったが、第4週以降は 20～30 代を下回っている。なお、第 5 週から、全ての年齢群で増加が鈍化し、第 8 週は概ね微減傾向である。

前週比としては、第 48 週～第 5 週は、前週比が毎週 1.0 以上であったが、第 6～8週は 1 を下回った。前週比は、第 1 週は 10.0、第 2 週は 3.4、第 3 週は 2.2、第 4 週は 1.4、第 5 週は 1.0、第6週は 0.8、第 7 週は 0.9、第 8 週は 0.8であった。年代ごとの前週比は、第 8 週は中央値:0.79、範囲:0.71～0.92 倍であった。また、直近の週は過小評価される傾向があり、3 月 1 日現在の第 8 週の値と 2 月 22 日現在の第 7 週の値を比較すると、中央値:0.83、範囲:0.74～0.96 倍であった。遅れを考慮した前週比でも全ての年齢群で 1 を下回った。

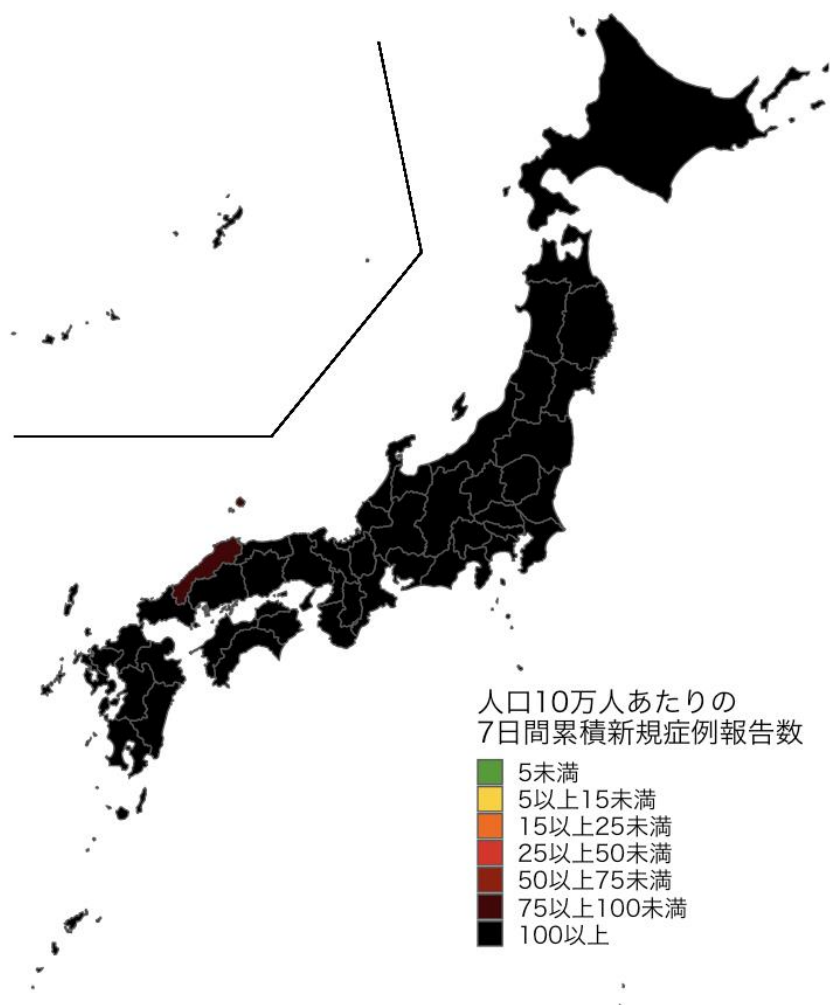
小児の傾向としては、0～4 歳、5～9 歳、10～14 歳(0～14 歳は、報告された全症例の27.5%)の人口 10 万対新規症例報告数はそれぞれ522、920、651 であり、第 6、7 週と同様に、いずれも 15～19 歳(全症例の 5.7%、人口 10 万対新規症例報告数は 383)を上回り、5～9 歳が人口当たり最多の年齢群であった。第 43～45 週の人口当たりの新規症例報告数は、15～19 歳が 0～4 歳、5～9 歳、10～14 歳を下回り、それ以降は、ほぼ同様なレベルで推移していた。第 1 週と第 2 週は、再び 15～19 歳の新規症例報告数が急増し、全新規症例報告数に占める割合も人口当たりの新規症例報告数も相対的に多くなったが、第3～4週は15～19 歳の増加が鈍化し、第5、6週は減少し、第 7 週は横ばいで、第 8 週は微減した(第 8 週の遅れを考慮した前週比は、14 歳以下では、0.88～0.96 であったが、15～19歳では 0.83)。

第 1 週は、全ての年代で大きく増加し、20 代では人口 10 万対新規症例報告数の前週差が 100 人を上回った。第 2 週は、全ての年代で更に増加し、15～19歳と 20 代では人口 10 万対の前週差が 200 人を上回った。第 3 週の前週差は、30 代以下の全ての年齢群で、人口 10 万対約 200 人以上であり、第4週の前週差は、15～19歳を除いた50代以下の年齢群では、いずれも人口 10 万対100人以上であり、5～9歳と10～14歳においては、200人を上回った。一方、第5週の前週差は、5～9歳を除いて、人口 10 万対100人未満であり、20代と30代では20人以上の減少の前週差を認めた。第 6 週の前週差においては、80 代以上以外の年齢群で減少の前週差を認めた(人口 10 万対-7.3から-119.7 人の減少)。第 7 週の前週差においては、15 歳未満の小児では増加した(人口 10 万対25から 34 人の増加)が、第 8 週の前週差においては、全ての年齢群で前週差の減少を認めた(人口 10 万対-20 から-101 人の減少)。第 8 週は、第 7 週と同様に、20 代で前週差の減少幅が最も大きかった。

2. 地域別の状況

2.1. 地域別の新規症例報告数

図 6: 都道府県別新規症例報告数地図



出典:自治体公開情報(3月1日現在)

表 2:(A)2022 年第 8 週の地域別の新規症例報告数、人口 10 万対新規症例報告数、前週の新規症例報告数と前週比、(B)遅れ報告によるバイアスを考慮した、同時点での前週比、(C)遅れ報告によるバイアスを考慮した、同時点での新規症例報告数、人口 10 万対新規症例報告数の前週との差(同時点とは、3 月 1 日現在の第 8 週の値と 2 月 22 日現在の第 7 週の値との比較)

(A)

地域ブロック	HER-SYS					自治体公開情報				
	当該週症例報告数(人)	割合(%)	当該週人口10万対症例報告数	前週症例報告数(人)	前週比	当該週症例報告数(人)	割合(%)	当該週人口10万対症例報告数	前週症例報告数(人)	前週比
北海道	12,173	3.1	232	16,069	0.76	15,855	3.5	302	18,709	0.85
東北	12,400	3.2	143	13,691	0.91	13,948	3.1	161	15,005	0.93
関東	179,348	46.1	387	225,003	0.80	192,558	42.3	416	235,417	0.82
北陸	9,101	2.3	176	9,845	0.92	10,776	2.4	208	10,971	0.98
東海	42,296	10.9	283	52,052	0.81	51,588	11.3	345	61,725	0.84
近畿	86,548	22.2	422	113,531	0.76	109,235	24.0	532	143,206	0.76
中国	11,122	2.9	153	12,196	0.91	12,467	2.7	171	14,075	0.89
四国	6,561	1.7	176	6,983	0.94	7,271	1.6	195	7,432	0.98
九州	25,022	6.4	195	30,877	0.81	36,814	8.1	288	43,353	0.85
沖縄県	4,573	1.2	315	4,253	1.08	4,362	1.0	300	4,283	1.02
計	389,144	100.0		484,500	0.80	454,874	100.0		554,176	0.82

(B)

地域ブロック	HER-SYS			自治体公開情報		
	当該週報告数(人)	前週報告数(人)	前週比	当該週報告数(人)	前週報告数(人)	前週比
北海道	12,173	15,014	0.81	15,855	18,710	0.85
東北	12,400	13,401	0.93	13,948	14,899	0.94
関東	179,348	215,060	0.83	192,558	228,605	0.84
北陸	9,101	9,073	1.00	10,776	10,676	1.01
東海	42,296	51,192	0.83	51,588	61,421	0.84
近畿	86,548	108,915	0.79	109,235	143,006	0.76
中国	11,122	11,915	0.93	12,467	14,058	0.89
四国	6,561	6,871	0.95	7,271	7,432	0.98
九州	25,022	28,475	0.88	36,814	43,353	0.85
沖縄県	4,573	4,235	1.08	4,362	4,261	1.02
計	389,144	464,151	0.84	454,874	546,421	0.83

(C)

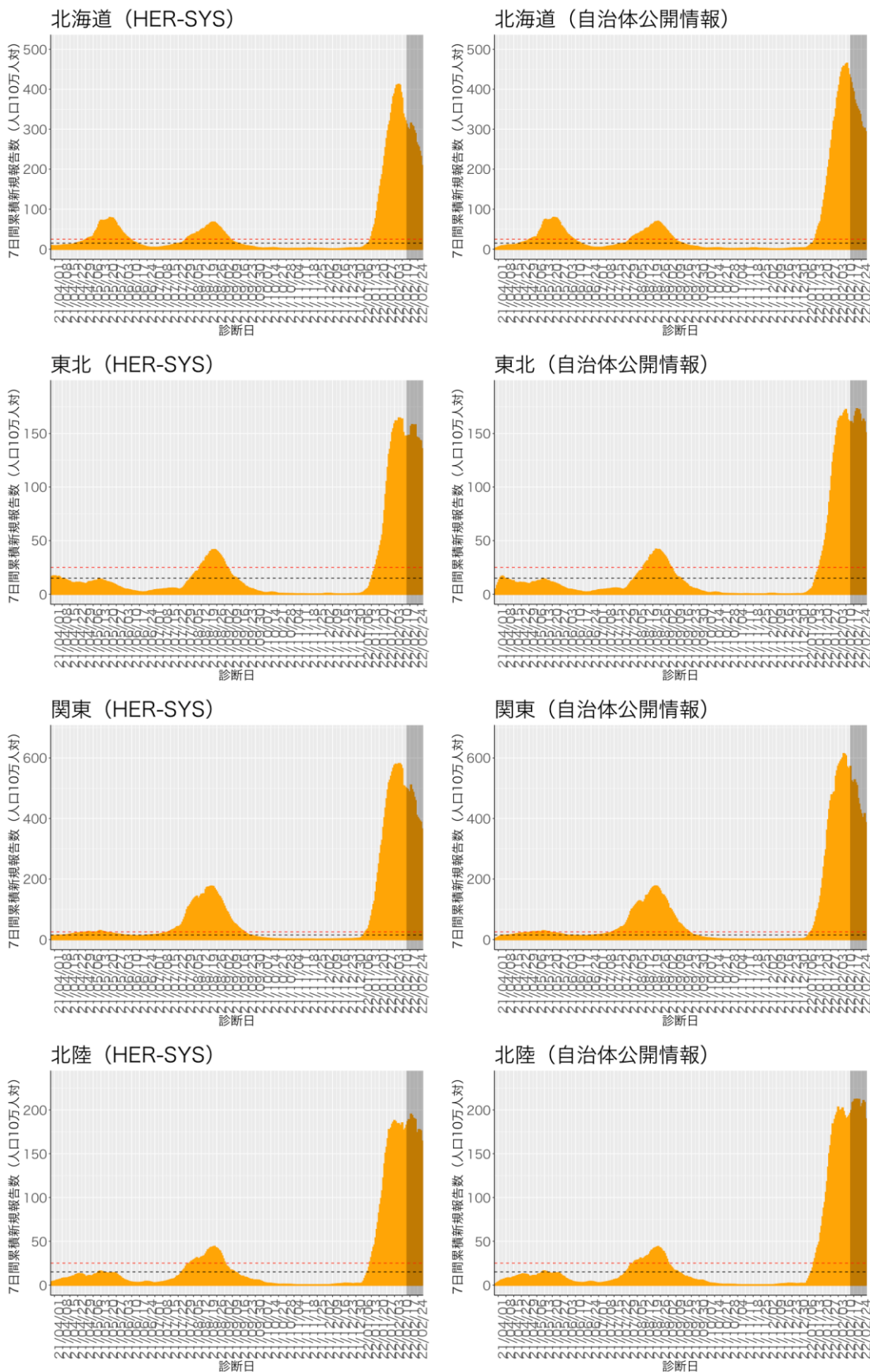
地域ブロック	HER-SYS						自治体公開情報					
	当該週症例報告数(人)	前週症例報告数(人)	当該週新規症例報告数人口10万対	前週新規症例報告数人口10万対	当該週症例報告数の前週との差	人口10万対当該週症例報告数の前週との差	当該週症例報告数(人)	前週症例報告数(人)	当該週新規症例報告数人口10万対	前週新規症例報告数人口10万対	当該週症例報告数の前週との差	人口10万対当該週症例報告数の前週との差
北海道	12,173	15,014	232	286	-2,841	-54.1	15,855	18,710	302	356	-2,855	-54.4
東北	12,400	13,401	143	155	-1,001	-11.6	13,948	14,899	161	172	-951	-11.0
関東	179,348	215,060	387	464	-35,712	-77.1	192,558	228,605	416	494	-36,047	-77.8
北陸	9,101	9,073	176	175	28	0.5	10,776	10,676	208	206	100	1.9
東海	42,296	51,192	283	342	-8,896	-59.4	51,588	61,421	345	410	-9,833	-65.8
近畿	86,548	108,915	422	531	-22,367	-109.0	109,235	143,006	532	697	-33,771	-164.5
中国	11,122	11,915	153	164	-793	-10.9	12,467	14,058	171	193	-1,591	-21.9
四国	6,561	6,871	176	185	-310	-8.4	7,271	7,432	195	200	-161	-4.3
九州	25,022	28,475	195	222	-3,453	-27.0	36,814	43,353	288	339	-6,539	-51.1
沖縄県	4,573	4,235	315	292	338	23.2	4,362	4,261	300	293	101	6.9
計	389,144	464,151			-75,007		454,874	546,421			-91,547	

出典:HER-SYS(3月1日現在)

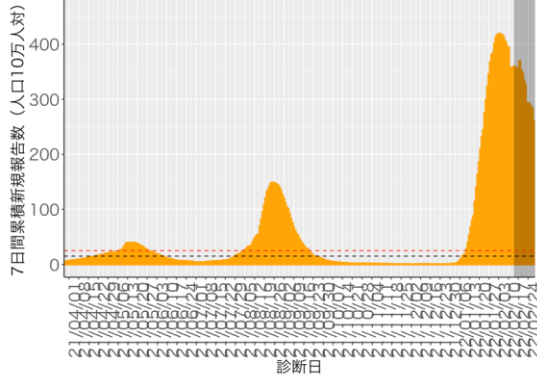
注)直近の週は過小評価されている場合がある。

図 7:地域別の新規症例報告数(2021年3月29日~2022年2月21日)

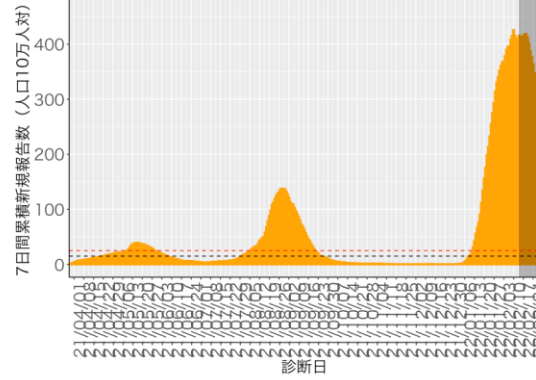
黒点線は人口10万対新規症例報告数が15人、赤点線は人口10万対新規症例報告数が25人を示す。



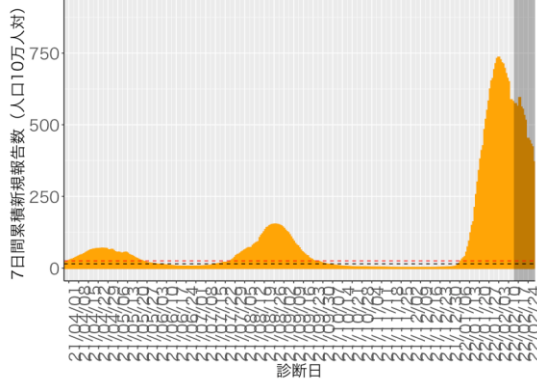
東海 (HER-SYS)



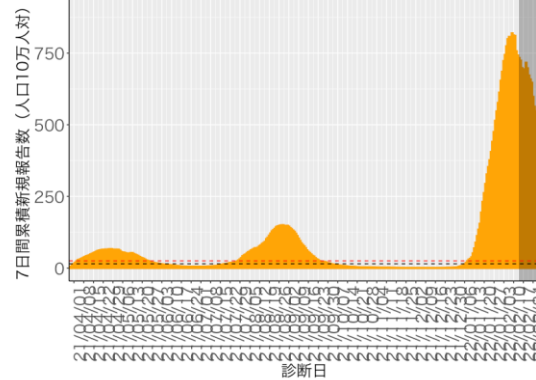
東海 (自治体公開情報)



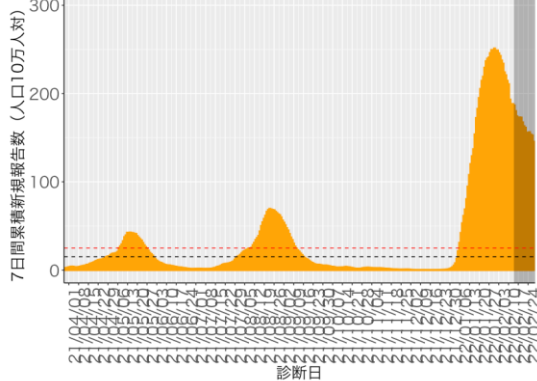
近畿 (HER-SYS)



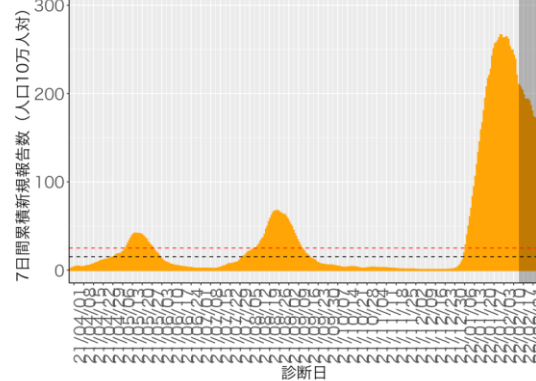
近畿 (自治体公開情報)



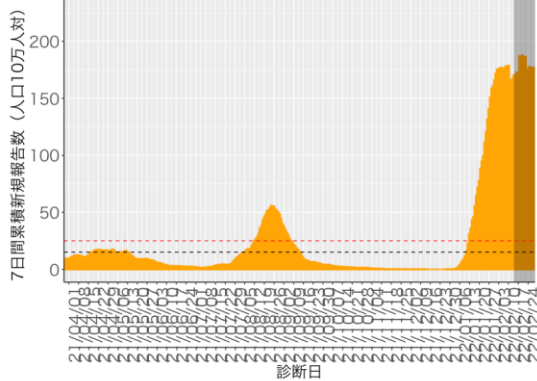
中国 (HER-SYS)



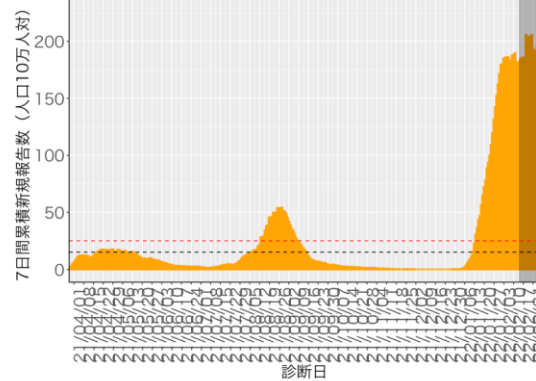
中国 (自治体公開情報)

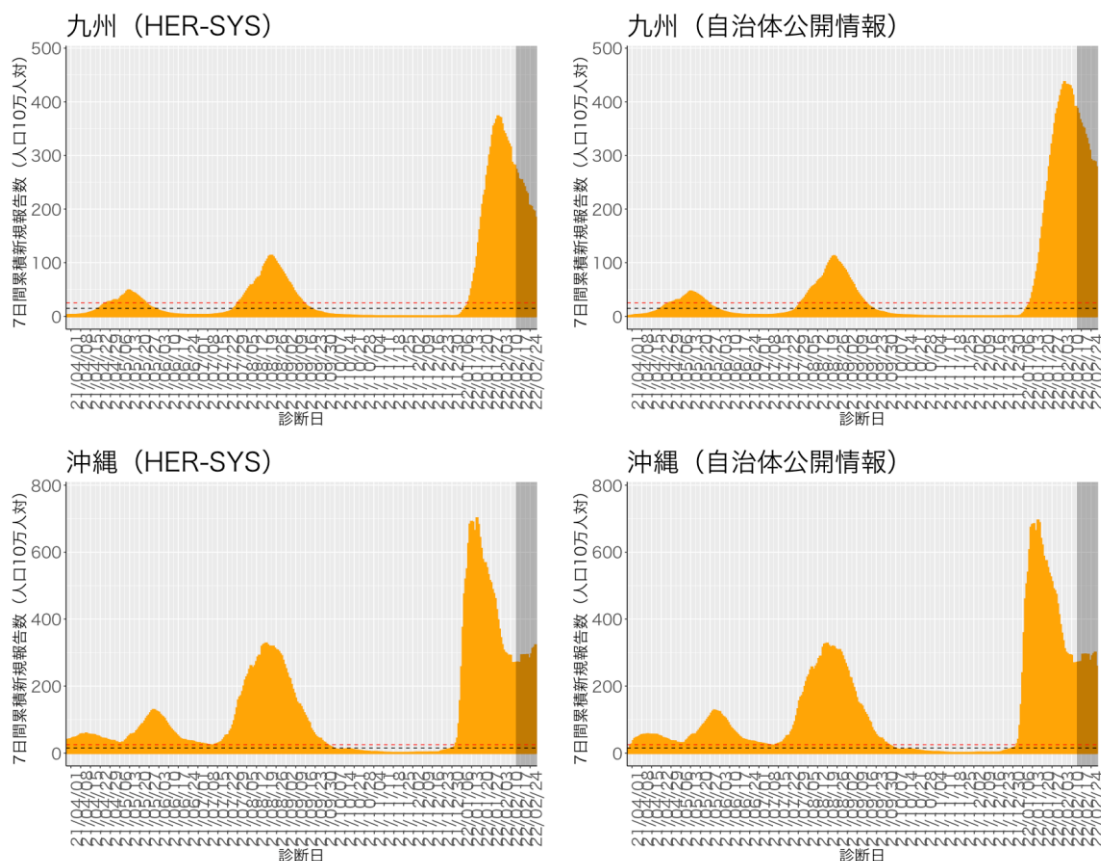


四国 (HER-SYS)



四国 (自治体公開情報)





出典:HER-SYS、自治体公開情報(3月1日現在)

注)地域別の流行曲線ごとに縦軸のスケールが異なることに注意が必要。

注)直近の週は過小評価されている場合がある。

遅れ報告を考慮した HER-SYS・自治体公表の前週比がいずれも、第51週は、北陸、東海、四国以外で、第52週は、北陸と九州以外で、HER-SYS・自治体公表ともに1を上回った。なお、遅れ報告を考慮したいずれも、第1週は、全ての地域で3を上回り、第2週は、沖縄県以外では2を上回り(沖縄県においては1.3)、第3週は、中国と沖縄県以外で2を上回った(沖縄県においては0.9)。第4週は、東北では2を上回ったが、その他の地域では2以下であり、沖縄県においては0.8であった。第5週は、全ての地域で1.5を下回り、沖縄県においては、0.6であった。第6週は、関東、近畿、中国、四国、九州、沖縄県の地域で遅れ報告を考慮した HER-SYS・自治体公表の前週比がいずれも1.0を下回った。第7週は、関東、近畿、中国、九州の地域で遅れ報告を考慮した HER-SYS・自治体公表の前週比がいずれも1.0を下回ったが、沖縄県では1.0を上回った。第8週は、北陸と沖縄県以外の地域で遅れ報告を考慮した HER-SYS・自治体公表の前週比がいずれも1.0を下回った。

直近の週では、全症例の7割弱を近畿と関東が占めている。近畿は、第44～45週は約29%、第48週は約19%、第49週は約17%、第50週は約15%と減少傾向であったが、第51週は約20%、第52週は約23%に増加した。第1週は約18%に減少し、第2～8週は約2割で推移している。関東は、第44週は約3割、第48週は約5割、第49週は5割強、第50週は約6割と増加した。その後、他の地域がより増加し、第51は5割弱、第52週は4割弱、第1週は約3割に減少したが、第2～4週は約4割、第5～8週は4割強で推移している。

第51週から、沖縄県など、人口10万対新規症例報告数の前週差が1を上回る地域が増えた。第1週では、全ての地域で、人口10万対新規症例報告数の前週差が3を上回った。第2週では、全ての地域で、人口10万対新規症例報告数の前週差が10を上回った。第3週と4週では、沖縄県を除いた全ての地域で、人口10万対新規症例報告数の前週差が20を上回った。第5週では、中国と沖縄県で、人口10万対新規症例報告数の前週差が10を下回った。第6週では、関東、中国、九州、沖縄県で、人口10

万対新規症例報告数の前週差が10人以上の減少となり、第7週では、中国と九州で、人口10万対新規症例報告数の前週差が10人以上の減少となった。第8週では、北海道、東北、関東、東海、近畿、中国、九州で、人口10万対新規症例報告数の前週差が10人以上の減少となった。一方、沖縄県においては、人口当たりの新規症例報告数は依然として高く、第7週と同様に、第8週の前週比は1を若干上回り、人口10万対新規症例報告数の前週差も5人強の増加であった。

第8週の地域別の前週比は、以下であった。

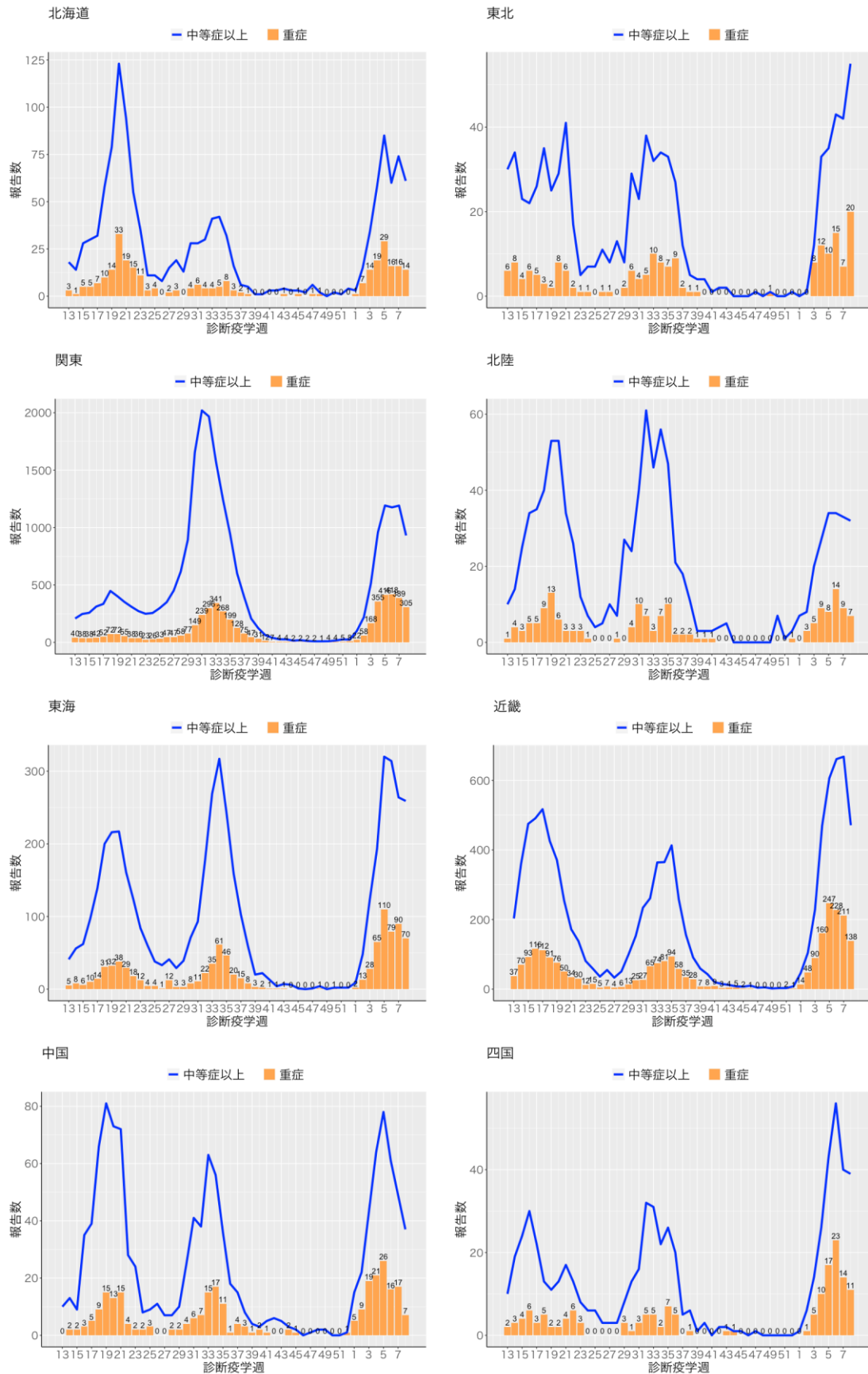
- ◆ HER-SYS:中央値:0.86、範囲:0.76～1.08(遅れ報告を考慮した前週比は、中央値:0.88、範囲:0.79～1.08)
- ◆ 自治体公表:中央値:0.87、範囲:0.76～1.02(遅れ報告を考慮した前週比は、中央値:0.85、範囲:0.76～1.02)

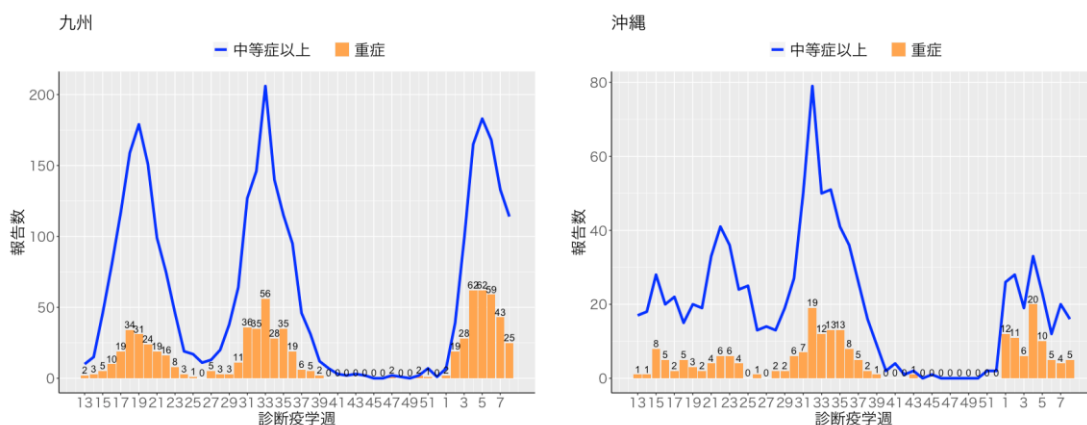
遅れ報告を考慮した上での地域ブロック別の評価は以下の通りである。

- ◆ 北海道:レベルとしては人口10万対新規症例報告数が230人を上回っている。第50週～第5週は増加し、第6、7週は横ばいであったが、第8週は減少した。
- ◆ 東北:レベルとしては人口10万対新規症例報告数が140人を上回っている。第51週～第5週は増加し、第6週は横ばい、第7週は微増し、第8週は微減した。
- ◆ 関東:レベルとしては人口10万対新規症例報告数が380人を上回っている。第48週～第5週は増加していたが、第6、7週は微減し、第8週は減少した。
- ◆ 北陸:レベルとしては人口10万対新規症例報告数が170人を上回っている。第1週～第5週は増加し、第6週は微減したが、第7週は微増、第8週は横ばい～微増であった。
- ◆ 東海:レベルとしては人口10万対新規症例報告数が280人を上回っている。第52週～第5週は増加したが、第6～7週は横ばいで、第8週は減少であった。
- ◆ 近畿:レベルとしては人口10万対新規症例報告数が420人を上回っている。第50週～第5週は増加していたが、第6、7週は微減し、第8週は減少であった。
- ◆ 中国:レベルとしては人口10万対新規症例報告数が150人を上回っている。第52～4週は増加していたが、第5週は横ばい、第6～8週は減少した。
- ◆ 四国:レベルとしては人口10万対新規症例報告数が170人を上回っている。第52週～第5週は増加、第6週は微減、第7週は微増、第8週は微減であった。
- ◆ 九州:レベルとしては人口10万対新規症例報告数が190人を上回っている。第1週～第5週は増加傾向であったが、第6～8週は減少した。
- ◆ 沖縄県:レベルとしては人口10万対新規症例報告数が300人以上である。第50週～第2週は増加傾向で、第3～6週は減少したが、第7、8週は増加した。

2.2. 地域別別の重症者数

図 8: 地域別の新規に届出された診断時中等症以上であった症例と重症であった症例[†](診断週)





出典:HER-SYS(3月1日現在)

†HER-SYS における中等症以上の定義は発生届で診断時に、「肺炎像」「重篤な肺炎」「多臓器不全」「ARDS」のいずれかにチェックされているかどうか、または死亡例である(「肺炎像」ありのみも含むため、臨床的に軽症である症例も含まれる可能性がある)。重症の定義は発生届で診断時に、「重篤な肺炎」「多臓器不全」「ARDS」のいずれかにチェックされているかどうか、または死亡例である。

注)地域ブロックの流行曲線ごとに縦軸のスケールが異なることに注意が必要である。

注)直近の週は過小評価されている場合がある。

中等症例と重症例の指標は、発症からの遅れの時間差はあるが、軽症例・無症候例と比較して、受診行動、検査対象の変化によるバイアスをより受けにくい。

地域別の新規に届出された診断時中等症以上であった症例と重症であった症例においては、第2週には、中等症以上の症例は、全ての地域で増加し、重症の症例は、東北と沖縄県以外の地域で増加した。第3週には、中等症以上・重症の症例は、沖縄県を除いた全ての地域で増加した。第4週には、中等症以上の症例は、全ての地域で増加し、重症の症例は、北海道を除いたすべての地域で増加した。第5週には、中等症以上の症例は、沖縄県を除いた全ての地域で増加し、重症の症例は、北海道、関東、東海、近畿、四国、九州で増加した。第6週には、中等症以上の症例は、東北、北陸、東海、近畿、四国で増加し、重症の症例は、東北、北陸、四国で増加した。沖縄県においては、中等症以上・重症の症例は、第5週と同様に第6週も減少した。第7週には、中等症以上の症例は、北海道と沖縄県で増加し、重症の症例は、東海と中国で微増～増加した。第8週には、中等症以上の症例は、東北のみで増加し、重症の症例は、東北と沖縄県で微増～増加した。沖縄県においては、重症の症例は、第7週は微減したが、第8週は微増した。新規の中等症以上と重症の症例は、ほとんどの地域で減少したものの、依然として微増～増加している地域も認めており、第4,5波のピーク値に近いか上回るレベルで推移している地域もある。今後の動向を継続して注視する必要がある。

地域別の評価は以下の通りである。

- ◆ 北海道:中等症以上・重症の症例は微減した。レベルとしては、中等症以上(50 例強)・重症例(14 例)ともに依然として第5波のピークを上回っている。
- ◆ 東北:中等症以上・重症の症例は増加した。レベルとしては、中等症以上(50 例強)、重症の症例(20 例)は、第4,5波のピークを上回った。
- ◆ 関東:中等症以上・重症の症例は減少した。レベルとしては、中等症以上(800 例強)と重症例(305 例)は第4波のピークを上回っている。
- ◆ 北陸:中等症以上・重症の症例は微減～減少した。レベルとしては、中等症以上は30 例を上回っており、重症例は7 例であった。

- ◆ 東海:中等症以上・重症の症例は微減～減少した。レベルとしては、中等症以上(250例強)は第4波を上回っており、重症例(70例)は第4、5波のピークを上回っている。
- ◆ 近畿:中等症以上・重症の症例は減少した。レベルとしては、中等症以上(400例強)、重症例(138例)ともに第5波のピークを上回っている。
- ◆ 中国:中等症以上・重症の症例は減少した。レベルとしては、中等症以上(30例強)、重症例(7例)、ともに第4、5波のピークを下回った。
- ◆ 四国:中等症以上・重症の症例は微減した。レベルとしては、いずれも第4、5波のピークを上回っている(中等症以上:約40例、重症例11例)。
- ◆ 九州:中等症以上・重症の症例は減少した。レベルとしては、中等症以上(100例強)、重症(25例)ともに第4、5波のピークを下回った。
- ◆ 沖縄県:中等症以上は微減し、重症の症例は微増した。レベルとしては、中等症以上は10例強であり、重症例は5例であった。

HER-SYS に関する注意点

- ◆ HER-SYS データでは保健所受理の有無、自治体確認の有無を確認できないため、解釈には注意が必要である。
- ◆ 報告日から HER-SYS 入力日までの遅れの頻度は自治体や地域の流行状況によって異なることに注意が必要である。

解釈に関する考え

サーベイランスアーチファクト(バイアス)も考慮し、トレンドとレベルの解釈をより可能にするために以下を評価する

- ◆ 検査数・陽性率
 - ・ 検査実施状況を考慮した上での陽性数の解釈が可能である。
- ◆ 限定法:新規の有症状、中等症・重症に限定
 - ・ 有症状:無症候に対する積極的な検査やスクリーニングによるバイアスを受けない。
 - ・ 中等症・重症:遅れの時間差はあるが、軽症例・無症候例と比較して、受診行動、検査対象の変化によるサーベイランスバイアスをより受けにくい。
- ◆ HER-SYS、自治体公表、ともに過小・過大評価の可能性があるため、両者を用いた評価が有用である。

参考サイト

国内の発生状況など

https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kokunainohasseijoukyou.html#h2_1/

データからわかるー新型コロナウイルス感染症情報

<https://covid19.mhlw.go.jp/>

新型コロナウイルス感染症(COVID-19) 関連情報ページ

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/covid-19.html>

NPO 法人日本 ECMOnet

<https://crisis.ecmonet.jp/>

自治体・医療機関向けの情報一覧(事務連絡等)(新型コロナウイルス感染症)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00088.html